



登米市の豊かな木材資源の有効活用を！

## 「登米の森林から」

森林・林業の好循環による地域の健全な森林づくりを目指して！

- ▶ 森林・林業をめぐる状況は今、大きな変革期にあります。戦後の拡大造林で植えられた木々が収穫期を向かえた中でも外材の輸入量は依然として大きく、木材自給率は3割程度にとどまっています。
- ▶ 一方で、木質バイオマス発電やCLT（直交集成板）を用いた大規模施設の木造化等の話題が頻繁に報道されるようになり、地域材への期待が高まりつつあります。
- ▶ 森林・林業は長い期間を必要とする産業です。私達が今日あるのも先人たちが植林し手入れをしてきてくれたおかげです。託されたこの資源を活かし、さらに次代に引き継いでいくため、地域全体であり方を議論し、実践していく必要があると感じています。
- ▶ 東日本大震災からの復興の為、登米市でも災害公営住宅が建設され、この過程で登米市では、市内の3森林組合と建設業協会、建設職組合、木材協同組合等による協議会を設立し、他地区に先んじて



地域材の活用と地域雇用を基本とした“木造”の災害公営住宅を建設しました。地域の力を結集すれば大きな成果を上げられる良い例です。

- ▶ このニュース・レターは、県・登米市及び森林組合の共同執筆による発行です。今回第2号の発行にあたり、ニュース・レターを通して森林・林業への関心がより高まり、次代を見据えた森林資源の有効活用、地域活性化につながる事を願います。

登米町森林組合

代表理事組合長 芳賀 稔

# もり 登米の森林 から No.2

<共同執筆・編集>

宮城県登米地域事務所林業振興部  
登米市農林政策課  
登米町森林組合  
東和町森林組合  
津山町森林組合

## CONTENTS

- ◆ 巻頭言 . . . . . 1
- ◆ トピックス . . . . . 2
- ◆ シリーズ・インタビュー  
ヤマで働く！ . . . . . 3
- ◆ ハイ！こちら森林組合 . . . . . 4
- ◆ 登米市NOW！ . . . . . 5
- ◆ 森林づくりの技術 . . . . . 6
- ◆ 森林づくりへの支援 . . . . . 6
- ◆ ふるさとの自然案内 . . . . . 7
- ◆ コラム . . . . . 8



さらなる高みを目指し、地域の力を集結  
(登米市木造災害公営住宅)



## トピックス

### 「もくもくハウス仙台店」 新店舗オープン

道の駅「もくもくランド」でおなじみの「もくもくハウス」が、6月6日（土）に仙台市の宮城野萩大通りに「仙台店」をオープンしました。

仙台店は、宮城県が国の緊急雇用創出事業を活用して、2011年9月から宮城野区東八番丁に開設しましたが、ことし3月にいったん閉店、今回場所を改めて再出発したものです。求職者に実際に働いてもらいながら販売員としての知識や技術を身につけ、就労の機会が上げられるよう、県登米地域事務所が津山木工芸品事業協同組合に委託しているものです。

仙台の皆様にも、もくもくハウスの木工品を実際に手にとってもらい、その良さを分かっていただけるように、今後いろいろなイベントが予定されていますので、津山道の駅「もくもくランド」ともども、多くの皆様のご来場をお待ちしております。



#### 【もくもくハウス仙台店】

場所：仙台市若林区大和町1丁目22-19  
TEL：022-369-3690 営業時間：10:00～18:00  
定休日：12/30～1/3

#### ■イベント情報（毎月予定）

- 7月 おいしい珈琲講座
- 8月 フラワーアレンジメント講座又は美しい筆文字講座
- 9月 登米を知ってもらおう！観光PRツアーなど



### 育てる時間と手間をかけた 登米市産原木しいたけ（露地栽培）を応援して下さい！

原発事故の影響で、国から出荷制限がかかっていた登米市産の原木しいたけ（露地栽培）ですが、原木の入れ替えや徹底した栽培単位ごとの管理を行い、条件付きで一部出荷制限が解除されています。

※平成26年8月26日（本県初の解除）

※平成27年6月4日（追加解除）

県では、露地栽培しいたけの出荷前検査の徹底や生産施設等の巡回指導、追加解除に向けた支援を行うとともに、新たに生産再開を希望する方への相談、技術的なバックアップを行いながら、



県内有数のしいたけ産地の再生に向けて取り組んでいます。

安全が確認された登米市産露地栽培しいたけは、市内の道の駅などで販売されています。原木により栽培された味、香り、歯ごたえのある登米市産原木しいたけを是非ご賞味下さい。



しいたけ菌を植えた後、「人工ほだ場」（林内と同じような環境を再現）を使用して生産を再開

◆◆◆ 原木しいたけ（露地栽培）生産者 ◆◆◆  
登米町森林組合 千葉公明氏（東和町）  
芳賀裕氏（東和町） はんとく苑（米山町）

（施設栽培の原木しいたけは、もともと出荷制限はかかっておりませんので、安心してお召し上がり下さい。）



## シリーズ・インタビュー

# ヤマで働く！

現在、植林や間伐など森林の造成や整備のため働く人々は県内でわずか 1,400 人ほどです。しかし、こうした方々の活躍が、本県の全国有数の木材生産や多様な森林機能の発揮を支えているのです。このコーナーでは、そのような「普段はあまりお目にかかれないけれど、実は私たちの豊かで安全・安心な生活を支えている」ヤマのプロフェッショナル達をシリーズで紹介しています。

### 林業の現場から（第2回）

津山町森林組合 作業班長  
す さい たかやす  
須 齋 享 養 さん

**「やらないで後悔するより、やって後悔したほうがいいと思って」**

須齋さんは大学卒業後、自衛隊に入隊。39 歳で転職し、津山町森林組合に入ったという異色の経歴の持ち主。

もともと現場主義の性格で、中間管理職となり机の仕事が増え、体質に合わないと感じていました。そんな時、テレビで津山町森林組合の作業員が山を美しくする作業を見て、「これだ」と思い転職を決意したそうです。

**「最近山は山の大事な、環境問題が注目されるようになって、山の仕事がだんだん認められてきて。苦勞もたくさんあったけど、自分の仕事は意欲じゃなかった。林業をやって良かった、って思ったな」**

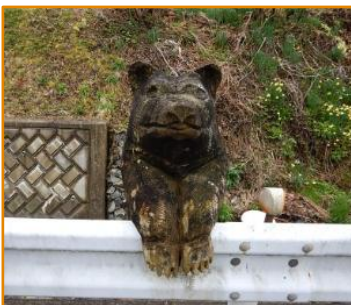
木を植え、手入れをし、収穫し、そしてまた植えるというのは、環境にとっても人間にとっても優しい、リサイクルの最たるもの。そのサイクルの担い手となる森林組合の仕事に意義を感じているそうです。

また、組合に入った当初は、誰も知り合いがない土地で、厳しい上司の下、つらいこともたくさんあったようです。

しかし、組合に入って3年が経ったころ、地域に気の合う仲間と出会い、仲間と一緒に津山町を盛り上げる企画を楽しく行い、仕事以外で息抜きができたことが救いになった、とおっしゃっていました。



神奈川県出身、今年 60 歳。まだまだ現役で現場作業を行っています。



### 【チェーンソーアート？】

木を切るチェーンソーを使ってつくる彫刻のこと。重いチェーンソーを持つての細かい作業で、高い技術と体力が必要です。

須齋さんは森に住む動物を中心に作っています。

**「若い人には、地域で気の合う仲間を見つけてほしいね。地元の人には、外から来た人の身になってあげることが大事。」**

仲間ができた時期と同じころ、須齋さんはチェーンソーアートを始めました。当初は、捨ててしまう木材をもらって1日1個を目標に作品を作り続け、自然と動くようになるまで体に覚えこませたとのこと。現在では登米市の産業祭りなどで、パフォーマンスを見せてくれています。

取材に伺った現場から山を下りたところで、フクロウと出会いました。ちょうど10年前の作品だそうです。山に溶け込みコケをかぶったその姿は、まるで生きているかのようです。（右下段）

39 歳での転職、誰も知らない土地での一からの出発。困難を乗り越えて、今はやりがいを持って仕事に取り組んでいる須齋さん。仲間と冗談を交し合いながら仕事をしている姿がとても輝いて見えました。

健康に留意しながら、まだまだ現役で、その技術と、山の仕事の素晴らしさを後輩たちに伝えていただきたいと思います。

（インタビュー）

登米地域事務所 技師 大内 環

林業や森林組合への就業については、最寄りの森林組合、または（公財）宮城県林業活性化基金（県森林組合連合会内）電話 022-217-4307）までお問い合わせください。



# ハイ！こちら森林組合！

森林所有者の協同組合である森林組合は、森林（もり）づくりの主要な担い手として、地域の森林が適切に整備・管理されるよう努めています。特に、収穫を迎えつつある木材資源を有効に活用しつつ山林の価値を高める「利用間伐」や「耐久性のある作業道開設」等を推進しており、これらを効率的な作業システムにより低コストで行う「集約化施業」を県や市と連携して全力で展開しているところです。

このコーナーでは、登米市内の森林・林業地域において森林整備のみならず様々な活動を行っている3つの森林組合の情報やお知らせをお届けします。森林・林業・みどりに関するお問い合わせは、是非森林組合へ！

## 登米町森林組合

### 「人づくり・森づくり・森林資源の有効活用」を掲げ事業を推進

森林・林業に従事するには、さまざまな資格取得や安全教育を受講する必要があるため、仕事の習熟度により採用から就労の各段階で様々な取り組みを行っています。

採用にあたっては未経験者も多いことから、緑の雇用や登米市農林業人材育成事業（緊急雇用）を通して、就業するうえで最低限必要になる基礎的な知識や資格の取得を行います。

その後実際の現場で作業を行うこととなりますが、作業を行う班に配属して、班長や現在2名いる専門指導員の元で、経験を積みながら業務に必要な実践的な知識や技術を取得していきます。また林業の現場では役割分担のうえでも各々が協調して作業を行う事で、安全に効率よく進めていく事ができます。実際の現場で作業をする中で仲間同士の交流を深めてチームワークの大切さを身につけていきます。

## 東和町森林組合

### 山や自然・機械が好きな方、東和町森林組合で働いてみませんか！

森林の資源は着実に成熟しつつあり、近年は木造住宅への丸太の供給だけではなく、循環型社会に適應した自然エネルギーを活用することが注目され、環境にやさしい木質バイオマス発電の原材料など、環境材として多様な用途での活用が期待されています。

本組合は、いち早く機械化をすることで労働強度を低減することを主な目的に、平成14年度から積極的に高性能林業機械を導入してまいりましたが、現場作業員数は19名とまだまだ少なく、現在も労働力の確保・育成が最優先の課題となっております。

写真で紹介した高性能林業機械のオペレーターは、全員が採用以前にバックホウなど機械を

さらに森林の多面的機能が重視されている現在、林業作業員においても多様な役割が求められています。作業技能を身につけた上で、施業管理やコスト・工程などの管理能力を習得したり、森林環境教育や都市との交流などの推進役となる森の案内人などに成長してほしいと願っています。



作業現場での一服も大切な時間

運転したことが無い、全くの林業未経験者でしたが、「緑の雇用」の研修生として採用されてから経験豊富な指導員のもとで、基本的な知識や資格を習得しながら技術を磨き、現在主に搬出から運搬の業務に従事しています。

平成27年度以降も「緑の雇用」の研修を実施しますので、「山や自然・機械が好きでやる気のある方」は、どんどん東和町森林組合にお問い合わせ願います。

左：現場作業を支える優秀な技能者たち  
右：オペレーターは前列中央の職員





## 津山町森林組合

**森と生きる町「津山」。現場作業員の平均年齢は42歳、若手が現場を支えます！**

登米市産業の一端を担う津山町森林組合の使命は、  
○組合員の皆様の「山づくり・森づくり」のお手伝い。  
○若さあふれる作業員による活力のある仕事で、森林にも活力を与えること。

○県民・登米市民・組合員の皆様から愛される森林組合を目指すこと。と考えます。

高性能林業機械による作業システムづくりのため、ハーベスタ・フォワーダ・グラブ付きトラックを整備してきました。同時に緑の雇用や登米市農林業人材育成事業で現場作業員の育成を図りながら、27年度は6千m<sup>3</sup>の素材生産量を目指しています。

作業員の平均年齢が42歳で、経験の少ない若い作業

員がほとんどです。その分、これからの期待はありますが、技能を指導するベテランの存在も重要な問題です。

今後は、森林組合職員のスキルアップとともに、作業員の現場研修の機会を増やすため、他事業体の現場視察も加えながら、若手作業員を育成に向けて頑張っていきます。山仕事に興味のある方（若くて明るい性格の方、男女問わず）を募集しております。まずは組合までご連絡下さい。

左：現場作業員は14名、20代～40代(12名)と若手が多い  
右：道の駅「つやま」もくもくランド物産館、森林組合の運営



## 登米市 NOW！

### 森が癒す ～森林浴から一歩進んだ森林セラピー～

今の季節、森に足を踏み入れると一面に緑が覆い、木々や土が香り、森に息づく命や力を感じることができます。

登米ふれあいの森・登米森林公園では、森林が持つ「癒し・リラックス効果」として、「森林浴」が親しまれてきました。この「森林浴」の効果を科学的に解明し、森の中で「五感を研ぎ澄ませ」、心と体の健康に生かそうという試みが「森林セラピー」です。

#### <登米ふれあいの森の癒し効果>

登米ふれあいの森は、国立研究開発法人森林総合研究所を中心とした専門家によって癒し効果が確認されました。

- 森林内の環境は温度、湿度・風・輻射熱などにおいて都市よりも快適である。
- 脈拍数の減少により、リラックスしていることが分かる。
- ストレスの指標である副交感神経活動が活発になり、ストレスが緩和される。

#### 五感で楽しむ森林セラピー

- 聴 く：森の音に天然の鎮静効果
- 見 る：映像から得る癒しの力
- 嗅 ぐ：香りで感じるリフレッシュ効果
- 触 る：自然の感触を楽しむ
- 味わう：自然の味を楽しむ

皆さんも登米ふれあいの森・登米森林公園で五感を働かせ、心身ともにリフレッシュし、自分に合ったリラックス法を探してみませんか。





## シリーズ・ 森林づくりの技術

### その②「ナラ枯れ」について

#### ＜ナラ枯れとは＞

- ・ 体長5mm程度のカシノナガキクイムシ(以下「カシナガ」)がナラ類(ミズナラ・コナラ・カシワ・クリ等)の幹に集団でもぐりこみ、ナラ菌を感染させ、感染したナラ類が通水障害を起こして枯れます。こうしてナラ類が集団で枯れる現象を「ナラ枯れ」といいます。
- ・ カシナガはもともと日本にいるもので、完全に駆除することは不可能です。大径木・高齢林ほど被害に遭いやすく、若齢林ではほとんど被害が見られません。
- ・ 樹種によって耐性が違い、ミズナラ・コナラなどが枯死しやすく、ブナなどはほとんど枯れません。

#### ＜ナラ枯れを見つけたら＞

- ・ ナラ枯れの被害木は、根元近くにカシナガの入った痕(直径1.4~1.9mm程度の穴)があり、大量のフラス(木くず)が発生しています。
- ・ 被害木処理は、薬剤くん蒸や破碎処理が有効ですが、短木に切って材を乾燥させ、カシナガの生育環境を悪化させる方法もあります。被害が広がる前に伐採して、有効利用することを検討しましょう。

#### ＜被害を拡大させないために＞

- ・ 6月10日~10月20日までは、カシナガが羽化脱出する時期なので、材の移動はできるだけ行わないようにしてください。
- ・ 被害材を破碎処理するときは、材片の厚さを10mm以下にしてください。

宮城県内の被害本数

(単位:本)

|     | H22  | H23  | H24  | H25   | H26  |
|-----|------|------|------|-------|------|
| 民有林 | 637  | 774  | 1225 | 7669  | 5484 |
| 国有林 | 1075 | 1173 | 561  | 3274  | 4434 |
| 計   | 1712 | 1946 | 1786 | 10943 | 9918 |

※登米市での被害は確認されていません。



ナラ枯れの状況



根元のフラス

検索

ナラ枯れ被害木の発見にご協力下さい

## シリーズ・ 森林づくりへの支援

### その② 造林や下刈りするときの助成

#### ◆伐ったら植える

若い広葉樹でもなければ、萌芽更新は期待できません。スギやアカマツなどの針葉樹や、古い広葉樹を皆伐したら、造林しないと森林に戻りません。

「伐ったら植える。すぐ植える。」とは、昔から言われてきたことですが、木価の安さも相まって、伐りっぱなしの所も多いようです。

造林するには経費も手間もかかりますが、すぐに植えないで放置すればするほど、更に経費や手間がかかります。

森林所有者に余り負担がかからぬよう、国や県などは造林や下刈りに補助金を交付しています。

#### ◆助成を受けるには一定の条件があります

補助金を受けるためには、国の制度に沿って施業を進める必要があります。また、年間の決まった予算があるため、計画的な取組が求められます。現在は、原則として「森林経営計画」を立てる必要があります。

#### ◆伐る前に最寄りの森林組合へご相談下さい

相談は、最低でも植える前にする必要がありますが、できれば伐る前にお願いします。地帯えの手間は経費に跳ね返ります。

詳細は、森林組合または県(登米地域事務所林業振興部)、登米市(農林政策課)へお問い合わせください。

## ふるさとの自然案内

### 三陸復興国立公園を紹介します

三陸復興国立公園は、青森県から宮城県まで、総延長 220 km に及ぶリアス式海岸がダイナミックな景観を見せてくれます。

これからの季節、美しい海岸線を眺めながらのドライブは楽しいものですが、東日本大震災の被害が特に大きかった地域でもあり、そこに残る爪痕を見ると、海の美しさとの対比に複雑な気持ちになります。

そんな時は、復興のために頑張っている方々や美味しい海の幸に元気をもらって、無理しない範囲で頑張っていること、改めて思うのです。

さて、登米市は海岸部からやや離れていますが、自然林と文化景観が相まって素晴らしい風致を保っています。横山不動尊周辺と柳津虚空蔵尊周辺の

登米市の多様な自然環境を象徴する、国立公園・県自然環境保全地域・登米市自然環境保全地域……。身近にある素晴らしい自然について、職員が実際に足を運び、その感想を交えて紹介していきます。

森林等 814 h a が三陸復興国立公園に指定されています。

横山不動尊は、登米市津山町の国道 45 号線の道の駅津山（もくもくランド）に近く、境内の清らかな池と加茂川には天然記念物のウグイが生息し、「横山のお不動様」を中心としたこの一体が公園の区域になっています。

柳津虚空蔵尊は、北上川沿いの国道

45 号線から東に数百 m のところにあり、境内には樹齢 400 年のケヤキ、や樹齢 500 年の杉並木をはじめとする、巨樹巨木が荘厳な雰囲気醸しています。

こうしてみると、三陸復興国立公園は「リアス式海岸の自然美」だけでなく、人と自然が織りなす文化景観にも着目していることが分かりました。



(横山不動尊)



(柳津虚空蔵尊)

### 登米市の巨樹・古木巡礼 (第 1 回)

日本人は、古（いにしえ）から並はずれて遠大なものや年月を重ねたもの、稀少なものなどに対し、そこに何らかの存在を感じ、畏れや敬い、そして安らぎの心を寄せて生きてきたと言われています。各地で地域の人々によって大切に祀られてきた巨樹や古木もその一つでしょう。ここでは、登米地方の巨樹・古木を訪ね、そのいわれや魅力をシリーズで紹介していきます。

#### ◆自然とともに育む鎮守の森 上沼八幡神社（中田町）

上沼八幡神社は、天喜 5 年（1057 年）鎮守府将軍・源頼義公とその子・八幡太郎義家公が、前九年の役に際し八幡山の地に陣を構え、戦勝祈願のため祭壇を設け京都・石清水より八幡大神を勧請したことに始まります。

神社は、義家公が植えられた市内一の古木の姥杉（うばすぎ）2 本のご神木をはじめ、スギ・マツ・モミなど古木群生林（登米市天然記念物指定）の木々が鎮守の森を形成しています。（一部のマツの巨木は残念ながら松くい虫の被害にあいました。）

境内はおよそ 1 万坪あり、鎮守の森全体が鳥獣保護区となっており、鳥はフクロウ・コゲラ・アカハラ等、動物はニホンカモシカ・ムササビ・リス・ノウサギ等多くの生き物が生息する豊かな森で、地理的に西は奥羽山脈、東は北上山地に生息している植物や生物が合流し、独自の生態を育む地でもあります。春は桜、夏は緑、秋は紅葉、冬は雪と四季折々で変わる風景を楽しめるのも醍醐味です。





コラム：目で見える登米の森林・林業

## 「本当はスゴイ!? 登米の森林・林業」

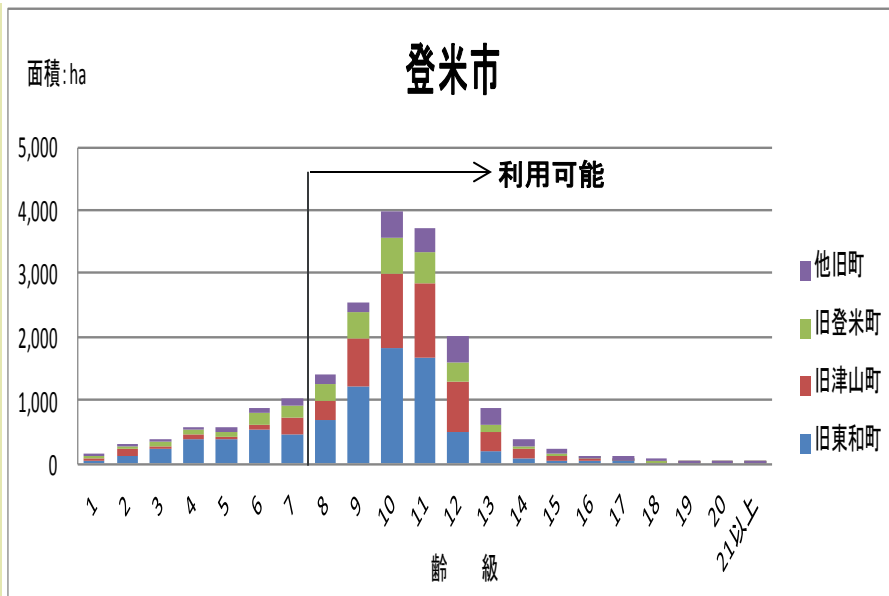
管内の民有人工林は約1万4千haで、その9割は旧登米町・津山町・東和町の3町にあります。人工林は特に旧東和町に半分近く（約44%）存しています。

8齢級（36～40年生）以上の割合が全体の約8割を占め、まさに収穫・利用の時期を迎えています。間伐が必要な4～7齢級（16～35年生）は2割近くあり、今後も適切に森林整備を進めていく必要があります。

※登米地域の人工林資源

- ・ 8～12齢級の蓄積量  
約350万m<sup>3</sup> <東京ドーム2.8個分>
- ・ 1年間の森林生長量  
約7万m<sup>3</sup> <木造住宅2600棟分>

注) ドーム体積124万m<sup>3</sup>、木造住宅（在来）の平均木材使用量26.4m<sup>3</sup>を用いる。



注) 齢級は林齢を5か年でひとくりにし、まとめたもの。1齢級は林齢1～5年生

### もり みやぎの森林の将来は担い手にかかっている！

本号のテーマは「担い手」。山づくりは、植林から収穫までに多くの人手を必要とします。一方で従事者の減少と高齢化が進んでおり、本県の林業就業者は約1,400人（H22国勢調査）しかいません。果たしてこれから、私たちの生活に不可欠な森林を、適切に維持管理していくことができるのでしょうか？

一つの試算をしてみます。伐期を60年とし、1haの造林保育に150人日、伐採搬出に100人日かかるとします。これは今日の平均的な人工数です。就業者のうち現場従事者を約1,000人、その平均就労日数を200日／年とすれば、60年間に供給できる労力は1,000人×200日×60年となり、これを上記の1ha当たり必要人工数合計250人で割ると、現状の労力で維持管理できる森林面積が算出できます。その結果は？

約5万haです。これに対して、本県の森林は人工林だけでも約20万haあります。これを登米地域に照らして試算すると、市の人工林は民有林だけで約1万4千haに達しますが、維持管理可能な面積は約5千haとなります。

これらはあくまで試算ですが、林業労働力はかなり際どい実態となっているのです。私たち関係者は連携して担い手の確保・育成を図るとともに、生産性や労働安全の向上にも鋭意努めてまいります。今後とも、皆さまの御理解と御協力をお願いいたします。

[やまの子]

### 編集後記

登米は多くの魅力がある。合併後10年が経ち、東北風土マラソン&フェスティバル、市民参加の新たな森林づくり植林体験・わたしの記念植樹など、独自行事も沢山ある。関係者が登米の魅力を発信しようと、想いを寄せてがんばっている。

地域の活力UPと資源（一級品）をどう活用していくか…。やはり生産現場を支える人を育てる努力の継続。この春、市内三つの高校が再編され登米総合産業高校が開校。

7月下旬、農林業研修を予定している。地域の将来を担う人材であるとともに、一人一人が県民・市民。森林・林業の大切さを伝えたい。

登米の森林から 2015年7月 [NO.2]

宮城県東部地方振興事務所 登米地域事務所 林業振興部  
〒987-0511 登米市迫町字西佐沼 150-5

